

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら立川若葉町教室			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 31日		～	2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数)	27名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日		～	2025年 11月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人一人に寄り添った、支援の提供をしている。	言葉が話せない児童に対しては、児童が理解しやすいツールの使用（イラスト、数字、ジェスチャー等）を混ぜて分かりやすい表現を意識している。 文字が書けなくても、会議の書記に立候補した時は、できる範囲で取り組み、児童のやりたい、できた気持ちを尊重するようにしている。	児童のアセスメントに基づいて、職員間で支援計画を考え、保護者様にも分かりやすく提供している支援を伝えていき、段階的に取り組んだ内容、経過、結果などを伝えていけると良いと感じる。
2	プログラムの充実性。	調理、外出、会議、買い物など様々な活動に取り組めるように職員間で話し合い毎月考えて構成している。 長期休みは車での遠出の外出を行ったり、児童が会議で決めた内容に沿って外出先を決めて、公共交通機関を使つての外出なども行っている。児童の意見を尊重することや、様々な活動の中で楽しく経験を積めるような企画を提供できるようにしている。	中学生が多い教室なので、プログラム内容を自分たちで考えて、1日のスケジュールの組み立てをするなど、見通しをもって児童主体で活動が行えるようにサポートをしていく。
3	保護者様との情報共有。	メールや電話での相談や連絡事項などは、当日内に即日対応するようにしている。また、連絡ツールで分からないことなどは、送迎時に直接お伝えをするなど、困っていることに寄り添うように取り組んでいる。	定期的なアセスメントを基に、困っていることや課題などを話し合い、支援に反映できるようにする。 また、就労先の情報など、現在のみではなく、先を見据えた支援のサポートもできるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様への支援、情報提供、地域、就労先への交流がもてていないこと。	就労や進学についての情報提供や保護者様が何に困っているのか、直接聞く機会が少ないことや、職員側が就労に対しての情報提供できるものが少ないことが要因として挙げられる。 また、コロナウイルス感染予防から保護者会などで交流をする機会がなくなってしまった。	保護者様への支援として、困っていることや就労先の情報提供など、事業所内だけではなく地域との交流や就労先とのつながりなどをもって情報提供できるようにしていく。 保護者会などは、交流イベントとして保護者様と児童がそれぞれ一緒に活動を行うなど交流できる機会をもてるようにする。
2			
3			